

「日本宗教」第5回

## 禅とその文化 近世の宗教

## リーディング・アサインメント

『世界を読み解く「宗教」入門』第4章  
topic 7 「仏教とビジネスの関係」  
(246-255頁)



## 禅とその文化 Overview

- ・ 禅とは何か
- ・ 栄西と臨済禅
- ・ 道元と曹洞禅
- ・ 室町時代の禅文化
- ・ [参考] 京都の仏教系大学と宗派

## 禅 (Zen) とは何か

- ・ 禅は国際的にもっとも知られている日本宗教
- ・ 鈴木大拙 (1870-1966) による海外への紹介



『禅と日本文化』 (岩波新書)  
『日本の靈性』 (岩波文庫)  
『禅とは何か』 (角川文庫)

## 禅の歴史

- ・ 禅はインドに古くからある修行法で、のちに仏教に取り入れられた。
- ・ 達磨 (Bodhidharma, 5世紀後半から6世紀前半)
- ・ 中国禅の開祖。日本のダルマの起源。
- ・ 中国禅は唐 (618-907) から宋 (960-1279) にかけて発展したが、明 (1368-1644) の時代には衰退していった。



月岡芳年画『達磨図』  
(木版画 1887年)



白隠慧鶴 (1685-1768) 筆  
『達磨図』



## 栄西と臨済禅

## 栄西 (1141-1215)

- ・ 比叡山で天台教学と密教を学ぶ。
- ・ 1168年、中国に渡るが、天台山は禅の寺院に変わっており、短期間で帰国。
- ・ 1187年、再び中国に渡り、天台山と天童山で臨済禅を修める (5年間)。
- ・ 帰国後、禅による天台宗の復興を唱えるが、比叡山からは異端として迫害を受ける。朝廷は禅宗を禁止。



- ・ 1199年、幕府に招かれ、鎌倉へ。公家文化に対抗意識を燃やす武士層から歓迎される。
- ・ 1202年、幕府の支援を受けて、京都で建仁寺を創建。延暦寺に属し、天台・密教・禅を兼学する道場であったが、後に純粋な禅の寺院となる。栄西は天台僧として生涯を送る。

## 臨済禅の特徴

- ・ 臨済禅では、師から与えられた「公案」を解くことで真理を体得する。
- ・ 例：隻手（せきしゅ）の声（白隠慧鶴）  
「隻手声あり、その声を聞け」
- ・ 室町時代には、臨済宗の有力寺院を中心に五山文化が栄える。

## 道元と曹洞禅

## 道元（1200-1253）

- ・ 比叡山で天台教学を学び、建仁寺で禅を修めた後、1223年、宋に渡り、曹洞禅を修める（5年間）。
- ・ 禅こそ正しい法であると説いたため、比叡山から迫害される。宇治に逃れる。
- ・ 1243年、越前で土地の寄進を受け、大仏寺（後に永平寺と改称）を開く。



- ・ 曹洞禅では公案を用いずに、ひたすら座禅をする（只管打坐 しかんたざ）。
- ・ 道元は臨済禅をも批判し、禅宗を含め宗派そのものを否定する。普遍的な仏教の探求（新しい宗派を開く意志はなかった）。
- ・ 『正法眼蔵』（しょうぼうげんぞう、Treasure of Knowledge of the True Dharma）を著す。





## 室町時代の禅文化

- ・ 臨済宗は鎌倉幕府の保護を受けて繁栄し、幕府は五山十刹（臨済宗寺院の寺格）を定める。最終的には室町時代になってから、三代将軍・足利義満が鎌倉五山と共に京都五山を定めた（京都五山が格上）。
- ・ 鎌倉五山：建長寺、円覚寺、寿福寺、浄智寺、浄妙寺



建仁寺  
風神雷神屏風  
(江戸時代初期)

- ・ 「五山之上」に南禅寺
- ・ 第一に天龍寺
- ・ 第二に相国寺
- ・ 第三に建仁寺
- ・ 第四に東福寺（右写真）
- ・ 第五に万寿寺



## 金閣・銀閣

- ・ 三代将軍・足利義満
  - ・ 北山第（てい）、後の臨濟宗鹿苑寺（ろくおんじ）を造る。一階が寢殿造り、二階が武家造り、三階が禅宗仏殿造り。金閣と呼ばれる。
- ・ 八代将軍・足利義政
  - ・ 東山の別荘に観音堂、後の臨濟宗慈照寺を造る。銀閣と呼ばれる。
- ・ 金閣寺・銀閣寺は臨濟宗相国寺派に属する。相国寺の山外塔頭。



The Golden Pavilion



The Silver Pavilion



花の御所（足利将軍家の邸宅。絵の右側が北）





## 足利義満創建の「鹿苑院」跡か 京都で遺構発見 (『朝日新聞』2010.11.25)

室町幕府3代将軍・足利義満(1358~1408)が創建した「鹿苑院(ろくおんいん)」の遺構が、同志社大の今出川キャンパス(京都市上京区)で見つかった。建物は江戸時代の古地図に記されていたが、研究者は「存在が初めて裏付けられた」と説明する。同大が24日、発表した。

同大によると、鹿苑院は大学に隣接する相国寺(しょうこくじ)の塔頭(たちちゆう)として、義満が1383(永徳3)年に創建した。義満の禅の修行場に使用され、当時の有力な禅寺「京都五山」(天龍寺、相国寺、建仁寺、東福寺、万寿寺)を統括する役割も担ったとされる。

今回、建物の柱を支える「根固石(ねがためいし)」を6カ所で確認。それぞれ拳大の石が直径約1メートルの円状に敷き詰められており、鹿苑院の仏堂跡とみられる。周辺からは、器の底に「鹿」と書かれた瀬戸焼も見つかった。その形から14世紀末ごろの製作とみられ、鹿苑院の創建時期とも一致。鹿苑院が当時からこの地にあった可能性が高まったという。

同大はキャンパス整備に伴う発掘調査を8月から始め、来年3月まで続ける。鹿苑院には義満の墓もあったと文献にあり、同大歴史資料館の浜中邦弘講師は「戦乱で破壊されていなければ、今後の調査で墓石の発見も期待できる」と話す。



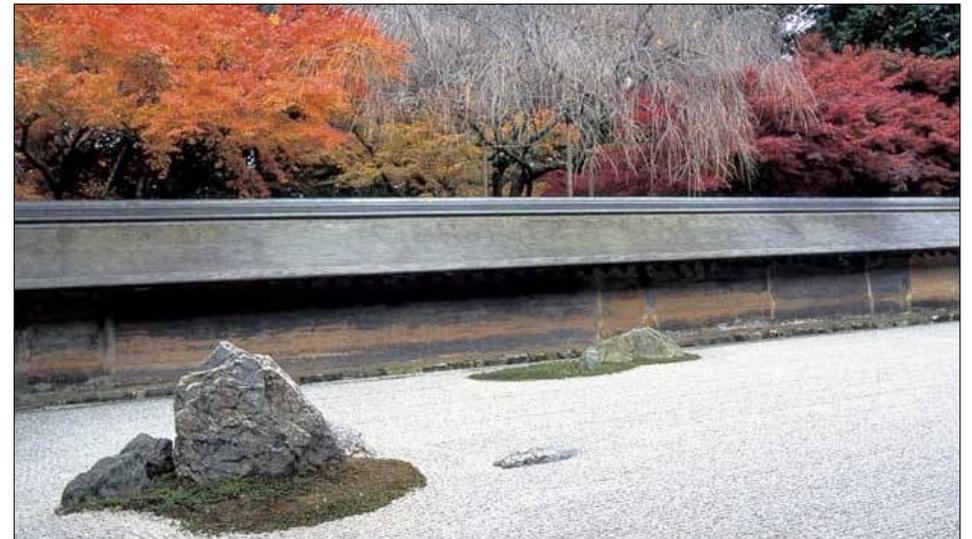
## 五山文化

- ・ 室町時代、京都五山を中心に五山文化が栄える。
- ・ 中国との活発な交流によって支えられる。室町時代には、中国との文化交流は禅僧がほぼ独占していた。
- ・ 五山文化は、禅の思想を文化の様々な領域に浸透させた。
- ・ 茶の湯、生け花、水墨画、能、武道（武士道）

## 石庭（rock garden, 枯山水）



龍安寺（臨濟宗 妙心寺派）



## [参考] 京都の仏教系大学と宗派

大谷大学	浄土真宗	大谷派（東）
龍谷大学		本願寺派（西）
佛教大学	浄土宗	
花園大学	禅宗（臨済宗）	
種智院大学	真言宗	
高野山大学（和歌山）		

これらの大学院に同志社大学（神学研究科）と皇學館大学（三重、神道）を加えると「京都・宗教系大学院連合」(K-GURS)となる。<http://www.kgurs.jp>

# 近世の宗教

## Overview

- ◆ キリシタンとその影響
- ◆ 神道とナショナリズム

# キリシタンと その影響

## カトリックの伝来

- ✦ 1549年、イエズス会のフランシスコ・ザビエル（1506-1552）がキリスト教（カトリック）を伝える。
- ✦ ザビエルはパリでイエズス会の設立に関わった（1534年）。
- ✦ 鹿児島、山口を経て京都へ。再度、山口、鹿児島へ（1551年まで）。
- ✦ 日本宗教を研究。当初、神を「大日」と訳す。違いがわかった後、「ダイウス（デウス）」と呼ぶ。



## キリシタンの拡大



- ✦ 九州では、南蛮貿易の利益を期待して、大名たちがキリシタンに改宗。
- ✦ 高槻城主・高山右近（1552-1615）がキリシタンに。
- ✦ 織田信長は宣教師フロイスに布教を許可し、京都四条に南蛮寺を建てさせた（1576年）。



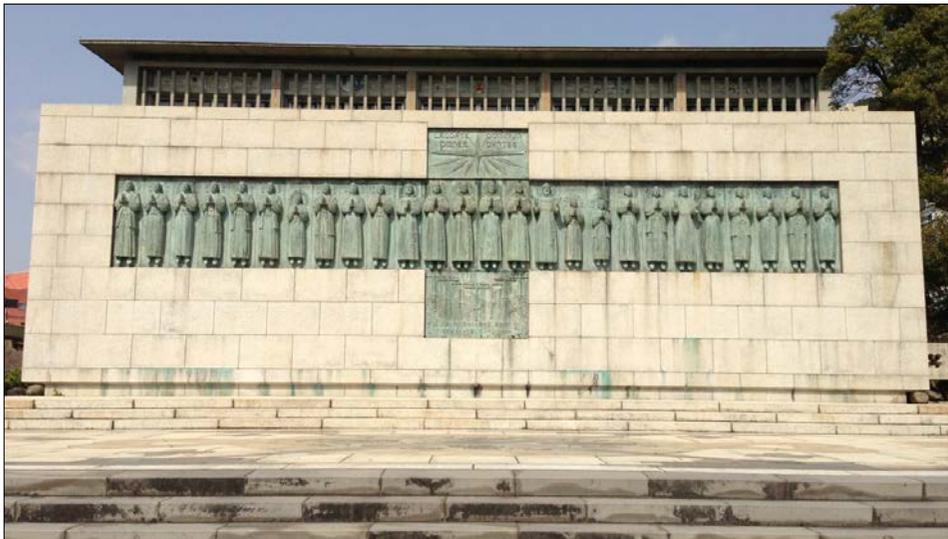




ばてれん

## 伴天連追放令

- † 豊臣秀吉は最初キリシタンを保護していたが、1587年に伴天連追放令を出す。
- † 伴天連：ポルトガル語 Padre（神父）から
- † 「日本ハ神国たる処きりしたん国より邪法を授け候ふ儀、太（はなは）だ以て然る可からず候ふ事」
- † 秀吉は自らを絶対的な支配者として神仏の中に位置づけることを望んだ（→ 豊国神社）。
- † 1597年、長崎二十六聖人殉教







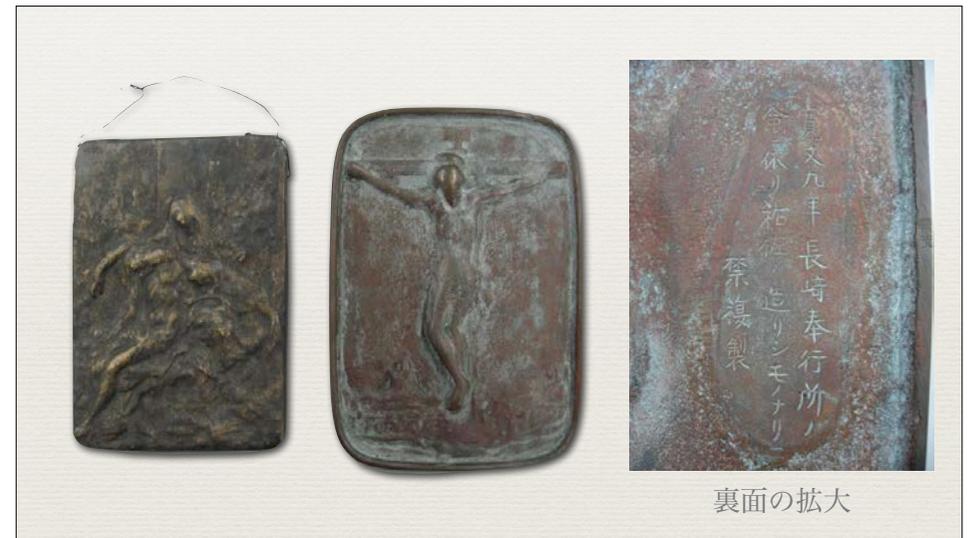




中山正美作「都の大殉教」  
(バチカン美術館蔵)

## キリシタンの全国的拡大と弾圧

- ✦ フランシスコ会、アウグスチノ会、ドミニコ会も来日
- ✦ 江戸幕府が開かれた17世紀初頭、キリシタンは最盛期を迎える。
  - ✦ 全国の信者は70万人。民衆の中に根を下ろす。
- ✦ 1613年、キリシタン禁教令
- ✦ 1628年、踏み絵の開始



裏面の拡大

## 島原の乱とその後

- ✦ 1637-38年、約4万人が原城に立てこもって抵抗。
- ✦ 1639年、鎖国の本格化。
- ✦ 1664年、寺請制度（檀家制度、寺檀制度）の開始
- ✦ 17世紀末にはキリシタンはほぼ消滅。
- ✦ ごく一部は「隠れキリシタン」として200年以上にわたり信仰を守る。

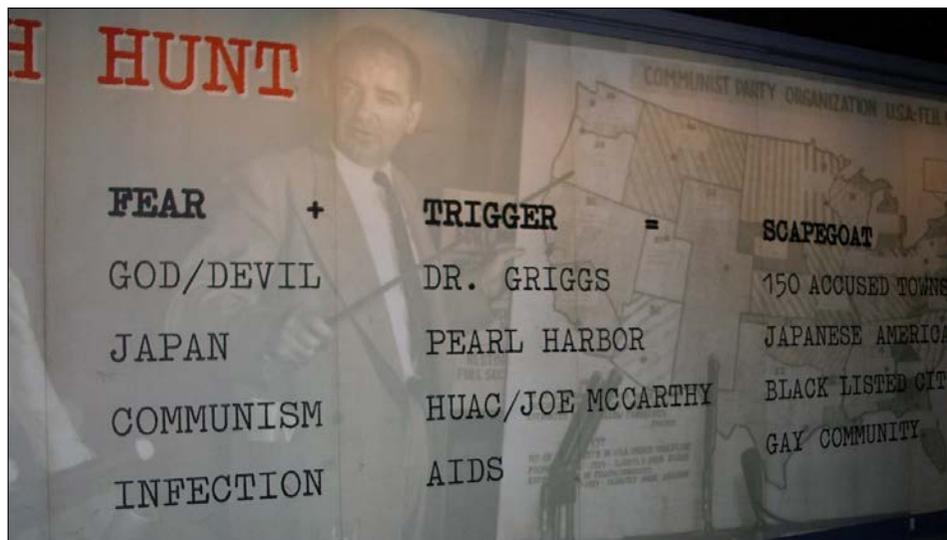
## 島原の乱関係の文学作品

- ✦ 遠藤周作『沈黙』新潮社、1966年
- ✦ 島原の乱直後の時代を描く。
- ✦ 石牟礼道子『アニマの鳥』筑摩書房、1999年。
- ✦ 歴史資料に裏付けられた壮大なドラマ。



## 【参考】セイラムの魔女裁判

- 1692年にアメリカのマサチューセッツ州にあるセイラム(Salem)村で、200人近い村人が魔女として告発され19人が処刑された。



## 異質なものに対する対応の歴史

- キリスト教に対する憧れと恐怖
- 虚像と実像の混在
- 禁制以降、「切支丹」のイメージが貧困化し、虚像が増殖していく。
- 今日の「一神教 vs 多神教」のディスコースにもつながっていく。

# 神道と ナショナリズム

## 天皇の復権

- ◆ 水戸学
  - ◆ 儒教と神道を取り入れて尊皇を唱える。
- ◆ 国学
  - ◆ 本居宣長、平田篤胤らによって発展。
- ◆ 水戸学、国学ともに、明治維新の指導原理となる

## 本居宣長（1730-1801）

- ◆ 『古事記伝』：『古事記』の「聖典化」
- ◆ 天照大神—天皇という一元的な系譜の確立
- ◆ 漢意（からごころ）の排除
  - ◆ 「第一に、漢意・儒意を、淨く濯（すす）ぎ去て、やまと魂をかたくする事を、要とすべし」（『うひ山ぶみ』）。



## 平田篤胤（1776-1843）

- ◆ 復古神道
- ◆ 天皇は記紀神話をはじめとする古典によって絶対化される。儒教・仏教と習合した神道を批判。



# 日本の古層の再発見

- ◆ 「古層」の再発見と創作 (invention)
- ◆ 純日本的な原理の探求
- ◆ 古典の再聖典化 (re-canonization)
- ◆ 天皇の神性の実証